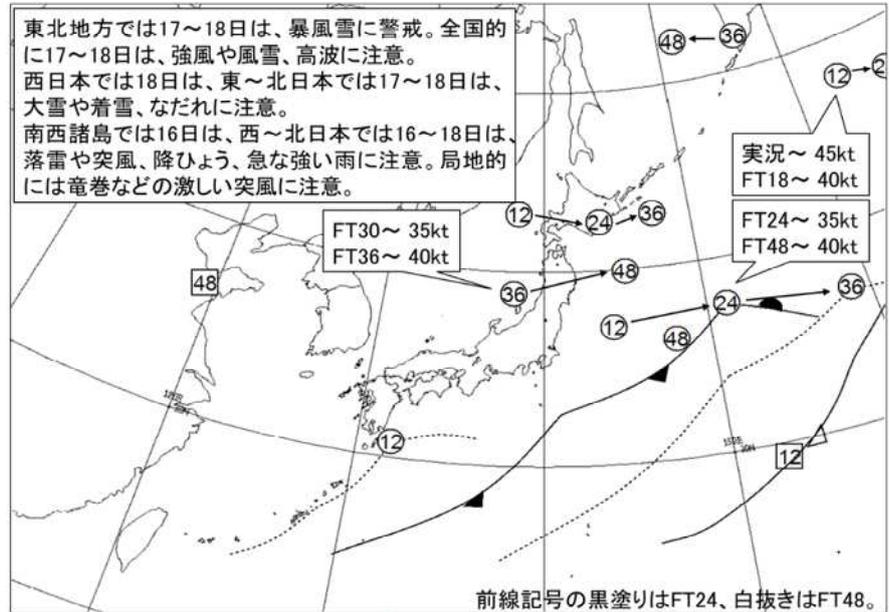


1. 実況上の着目点

- ① 東シナ海に低気圧があって、東北東進。低気圧に向かい、小笠原近海に中心を持つ高気圧後面の下層暖湿気が流入し、南西諸島、西～東日本では1時間に10～20mmの降水を解析。日本の東では雷を検知。
- ② 千島の東に発達した低気圧があって、東進。低気圧周辺の風浪を波源とするうねりにより、北日本では波が高くなっている所がある。
- ③ シベリアに500hPa5100m付近の-42℃以下の寒気を伴う寒冷渦があって、ゆっくり南下。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、前線を伴って16日朝には四国の南へ進む。また、500hPa5280m付近の-39℃以下の寒気を伴うトラフに対応し、17日未明までに日本海で低気圧が発生し発達しながら東進、17日朝には東北地方の日本海側へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気、上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。南西諸島では16日は、西～北日本では16～17日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の東北地方の日本海側へ進む低気圧は、17日夜には発達しながら日本の東へ進み、日本付近は次第に西高東低の冬型の気圧配置となる。850hPaで西日本には-9℃以下、東～北日本には-12℃以下の寒気が流入する。1項③の寒冷渦は、循環を弱めトラフとなり18日夜には北日本へ進み、500hPaで東日本には-30℃以下、北日本には-39℃以下の寒気が流入する。このため、降雪が強まり大雪となる所がある。西日本では18日は、東～北日本では17～18日は、大雪や着雪、なだれに注意。
- ③ 18日朝までに日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）が形成し、北陸地方を指向する。JPCZ周辺では短時間に降雪量が多くなるおそれがあるので留意。また、大気の状態が非常に不安定となるため、西～北日本の日本海側では18日は、落雷や突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風や局地的には非常に強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。東北地方では17～18日は、暴風雪に警戒。全国的に17～18日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量（06時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。
- ② 降雪量（06時からの24時間）：多い所（注意報級以上）はない。
- ③ 波浪（明日まで）：伊豆諸島5、北海道・東北・北陸・近畿・中国4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。